



全國支社局長會議

同盟通信社全國總支社局長會議は岩永前社長の一年祭に當る九月二日から四日間に亘り本社八階大會議室に於て開催

滿洲國通信社から藤川發信部長小林奉天支局聯絡部長出席、地方から福岡大阪、吉川名古屋、日笠關門(事務取扱)麻生福岡、各支社長、山崎札幌、荻原小樽、川口旭川、瀨川函館、蒲田青森、土居仙臺、藤澤秋田、成田横濱、落新瀉、中住長野、荒井甲府、樋口富山、櫻島澤、青木福井、福井京都青島神戸、杉山岡山、周藤廣島、山下高松、山田松山、植松高知、岡本大分、田端長崎、河邑熊本、三増鹿兒島、益崎臺北、河崎京城、磯部釜山(病缺)の各支局長、近藤大阪支社編輯部長ほか大川北支、松方中南支兩總局長

本社側から古野社長以下島山、上田、堀倉常務理事、伊藤參與、松本編輯顧問通信、塚本經濟各局長、石部總務、岡村編輯、田村通信各局長、結束人事、杉田庶務、船木文書、石部經理(兼)、塚村業務、内海出版(兼)、福田政治、大森經濟、栗林社會、秋山運動、松村演藝、岩本外信、横田東亞、佐藤特信、内海調査、牛腸寫眞、潮海整理、山口地方、高木滿洲、田村放送(兼)、渡邊英文、山本發送、吉田技術、鹽見外經、小松内經、秋野亞經、永松市場、小松商通

(兼)の各部長、諸富部長待遇不動等出席連日にわたり眞摯な論議が續けられ有益な會議であつた。

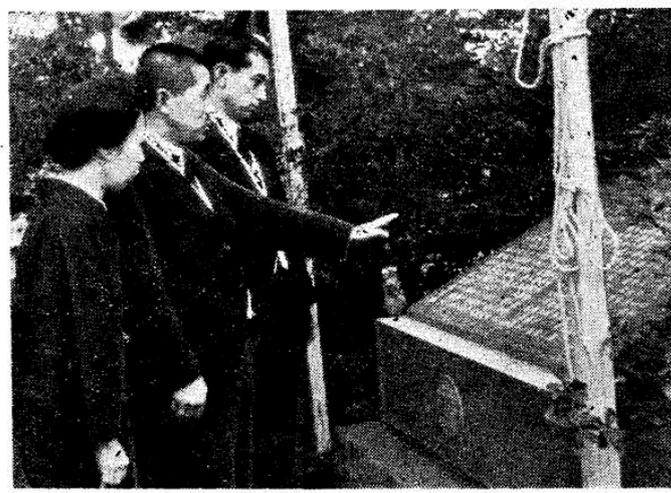
第一日。午前十時開會劈頭古野社長より報道報國、正確迅速、大同盟社員の決意に就て約三十分の訓示があつた後各局長の所管事項指示次で各支社局長より順次現地新聞界、經濟界の近狀、民心の動向など地方一般狀勢、及本社的一般方針並にニュースに對する意見希望等熱心な現地報告があり午後八時日幕を閉じ、午後二時一旦休憩三時から日黒の岩永家における故岩永前社長の一年祭に參列の後五時會議を再開、福田政治部長から「最近の政情に就て」、横田東亞部長から「極東の最新勢に就て」、岩本外信部長から「最近の國際情勢に就て」、それぞれ説明を試み午後八時日幕を終了。なほ當日議事の劈頭不法なる英國官憲のため逮捕拘禁されてゐる小林新嘉坡支局長並に空襲下に奮闘しつゝあるロンドン、ベルリン兩支局員一同に對し慰問激勵の件を満場一致可決全國總支社長會議の名に於て打電した。

第二日。午前九時開會前日に引續き各支社局長の現地報告があり正午エー、ワンにおける社長招待會に臨み午後一時から編輯局、通

號六十三第
月九年五十和昭
行發日五・回一月十
錢五金部一價定誌本一
錢拾六金(共稅)年一
一才 田杉 編發行發
一ノ七西座銀區橋京市京東
社信通盟同 所行發

信局、所管事項の協議を續行午後七時半日幕を終了。
第三日。午前九時開會各支社局長の現地報告續行、正午京橋アラ

岩永同盟初代社長功碑獻



スカに於ける日本ニュース映畫社招待午餐會、午後總務局(同報無線業務關係を含む)、經濟局所管事項の協議を行ひ午後七時日幕終了。
第四日。特殊問題に關する個々面接を以て全會議を終了した。
編輯局關係議事
一、中央に於て必要あるニュースの範圍について
二、時局柄特に取材及記述はつき注意すべき事項如何

同盟通信社初代社長岩永裕吉氏逝いて一年、同社がかねて多摩墓地に建設中であつた記功碑が竣工したので、その獻碑墓前祭が一日午後三時から同家墓地に於て嗣子信吉氏、鈴子未亡人その他遺族親戚、古野同盟通信社長、以下社員參列、山口教正司祭の下に厳かに執り行はれた。向一年祭は翌二日午後三時から品川區大崎四ノ二三三の岩永家に於いて営まれたが

折柄同盟全國支社支局長會議に出席中の各支社支局長等も參列し盛大な祭典、故人の遺徳が偲ばれた左記は獻碑の記功碑である(寫眞は多摩墓地に於ける記功碑除幕式)
岩永初代社長ノ靈ニ捧ク
歐洲動亂將ニ勃發セントスル昭和十四年九月二日君溘焉トシテ輕井澤ノ山莊ニ逝ク悲愁全社ヲ蔽フ同盟理事會ハ決議シテ曰ク社團法人同盟通信社初代社長岩

三、地方通信網の擴張強化とその活用について
四、情報としての報道に關する注意
五、經濟機構編成と地方經濟の實相について
六、一般外國電報、特に歐州戰爭ニュースに對する地方紙の意見と希望如何(分量、内容、速度等について)
七、支那事變ニュース並に滿洲南洋關係ニュースに對する地方紙

永裕吉君ハ夙ニ卓抜ナル識見ヲ以テ新聞通信業ノ國家的並ニ國際的重大性ニ着目シ同盟通信社ノ成立トシ健全ナル發達ニ對シテ不朽ノ貢獻ヲ爲シタリ殊ニ同盟通信社ヲシテ内ハ全國新聞社及ヒ放送協會ノ公益共同機關トシテ我國言論報道界ニ獨立不羈ノ地步ヲ保タシメ外ハ世界第一流ノ通信社トシテ國策遂行上ノ大機構タルニ至ラシメタル君ノ功績ニ歸スベキ所甚ダ大ナリト
君ハ專齋長與先生ノ四男明治十六年東京ニ生ル幼ニシテ岩永家ヲ繼キ田中宏君ノ長女鈴子ヲ娶リ一男四女アリ京都帝國大學ヲ卒ヘテ滿鐵鐵道院ニ奉職ス後意ヲ決シテ新聞通信界ニ投シ苦節十七年以テ畢生ノ業ヲ成ス君交友内外ニ普ク信望朝野ニ篤シ昭和十三年功ニ依リ貴族院議員ニ勅選セラレ逝去ニ際シ特ニ祭資ヲ賜フ勳三等ニ授ケラル君三千ノ社員ヲ率ヒテハ温情慈父ノ如ク而モ高明果斷ソノ烈々タル報道報國ノ精神ハ傳ヘ承ケテ我等ノ上ニ在リ遺業永ニ輝カム茲ニ誓フ新ニシテ不滅ノ靈ニ捧ク
昭和十五年九月二日
社團法人 同盟通信社

最近の取扱ひぶり如何(これに對する地方紙の希望)
八、各種解説記事に對する注文如何
九、スポーツ記事に對する希望(電送も含む)
一〇、寫眞取材と給配に關する件について
一一、調査部機構への協力と利用について
一二、特信に關する希望と注文
一三、地方新聞各版各面の切時間について

經濟局關係議事
一、世界及國內經濟變轉に伴ひ各種經濟通信(外國、東亞、内地を含む)の内容に改善を加ふべき必要あるべしと思はるゝが之れに關する各地購讀者の希望又は支社局の具體的意見
二、新聞商況欄向きとして送信しつゝある相場、市況等中改善を要するものあらば之れに對する新聞社の希望又は支社局の意見
三、ラヂオ相場放送の經濟通信に及ぼしつゝある影響並びに之れに對する支社局が執りつゝある對策又は意見
四、經濟通信の種別購讀料金その他經濟業務關係につき改善すべき點あらばその具體的意見
五、其他經濟關係事項につき現地支社局の特殊希望又は意見

戦争ニュースと 各國の宣傳戦

左記は日本外交協會七月例會の席上で同盟外信部長岩本清氏が講演せるもの、要旨である。(文責在筆者)

△戦争ニュースの洪水

ヨーロッパ戦争開始以來世界各國からのニュース入電数は日増しに増加を示した。從來「同盟」で取扱つて来た歐米電報は毎日七八十本乃至百本程度であつたものが最近では二百本乃至三百本、一日に四五千語多い日には一萬語に達する状態である。而も同じ問題に就てのニュースが區々で相互に矛盾する場合も相當に多い、英佛側から出た戦況ニュースと獨伊側から出たのとはいつも違つてゐる又中立國の米國から出たのとソ聯から出たのとスペインあたりから出たのとは皆喰違つて居る。交戦國としては先づ第一に國內の輿論を統一指導し飽くまで戦争目的の完遂を期すると共に敵國人の氣持を攪亂して抗戦力を弱め同時に中立國に對し積極的に働きかけて我が陣營に引込むよう全力をあげることは當然であつて武力戦、外交戦と相俟つて宣傳戦の熾烈なことは通信機關の發達した今日前回大戰の比ではない。斯様に矛盾した多量のニュースを手にして常にこれ等を如何に處理するかといふ難問題に當面するのであるが、かゝる場合先づ「同盟」が世界に向つて日本を代表する國策通信であることと常に念頭におき出来る限り客觀的な立場からニュースを取扱ふことが最も必要である。事實世

界のいづれの國を見ても戦争ニュースに關して日本程公正なニュースを多量に持つてゐる國はないと言つても過言ではない。

△ニュース自主網の確立

第一次歐洲大戰當時は我國の通信社にしても新聞社にしてもその海外通信網といつては誠に貧弱なものであつて外電の殆んど全部はイギリスのロイター通信社から受けたものであつた。無電は未だ發達せず唯一の海底電線も獨伊側のものは聯合國側に切斷されたため全くロイターの獨り舞臺となつた、米國經由若しくは入つた様であるが大部分はロンドンからイスタン線で来る英國製の聯合國側の宣傳ニュースの蹂躪にまかせドイッ側の言ひ分は全く知ることを得ないといふ状態であつた。現在の同盟は各國ニュースをそれぞれ刻々にその國から直接に取り而もこれは従前のように外國人に勝手に打たせるのではなく、本社から特派された優秀な日本人記者の手が必要と認めただけを打電させる所謂「ニュース自主網」を持つに至つたことは獨り我國の動向を誤らしめざるのみならず、進んで日本の主張を堂々海外に宣布する國際宣傳戦に非常な威力を加へた譯である。

△刻々集る世界の ニュース

同盟は特派員が打つて来るもの(ほかにAP(米)、UP(米)、DNB(獨)、ステファニ(伊)、ロイター(英)、アズアス(佛)、タス(ソ聯)の各國代表通信社からニュース交換契約により豊富に打電して来るから特派員の基本ニュースの他に各國の言ひ分が一通り皆集るといふ制度になつてゐる。戦争ニュースは各國の政府や軍當局發表が主となつてゐる公表物など相當宣傳色は露骨であるがやはりその國で得られる一番權威のあるニュースだからこれを第一とし各國の分量も公平に出す、例へばドイッ側の言ひ分を出すと英國側のもも出す、米國人記者の觀測も出せば物によつては更に我國の専門家の意見も添へて配給し編輯は新聞社に委すといふ方針をとつてゐる。米國の二三新聞は戦争が始まると同時にこの問題を取りあげて新しい試みをやつた、即ち讀者の參考に例へば公表物 OfficialにはO、宣傳記事 PropagandaにはP、それから大體確實 Seems authentic と思はれるものにはS・Aと符號をつけたが長く續かなかつた。

△宣傳ニュースの一例

蘭白作戦に續いて展開されたフランダーズ包圍戦に於ける戦果について見るに、獨伊側の發表は聯合國側投降降軍隊ベルギー五十萬、オランダ四十萬、英佛三十三萬、合計百二十三萬、英佛の失つた飛行機三千五百乃至三千六百機、獨伊軍戦死一萬二千五百二十二人、負傷四萬二千五百二十三人、行方不明八千四百六十三人、合計六萬一千二百三十八人、獨逸の失つた飛行機四百三十三機と言つてゐるに對しフランス側の發表は獨軍の損失約六十萬人、獨軍の主力たる重戦車の五分の三、輕戦車の二分の一飛行機二千機を失つたと宣傳してゐる。英國側の發表を見ると獨軍

は裝甲部隊を三分の一乃至半數、軍隊を四十萬乃至五十萬失つたことになつてゐる。昨年十二月ドイッ側から英本國艦隊の旗艦ネルソン號が機雷にぶれて大破したといふニュースを出した英國ではそんな馬鹿げた話があるかと一笑に附した、所がその後本年六月一日ドイッ側からネルソン號を獨軍が撃沈し乗組員の半數七百名が死んだといふニュースを出した、英國側では「特に否定する價值もない」と應酬したがドイッ側も負けては居らず作戦の必要上何處で撃沈したか場所を言へないが日を言つてやらう五月十一日だと暴露した、またノルウェー沖でドイッの爆撃機が英主力艦を直撃一發で爆沈させたといふ發表に對し英國側では頭からこれを否定した。フランダーズの戰闘でフランスの第一軍團長ブリュー大將が獨軍の捕虜になつたと獨伊側が發表したのに對しフランス政府はこれを否定、同大將の勳功に對し最高勳賞を授與したと發表してゐる。イタリアのルピア總督バルボ元帥がルピアの空中戦で戦死したとイタリア政府が發表したとき英國はさすがに英空軍はその地方に行つた覚えなしと如何にもイタリアの方でやつたのだと仄めかした。ポランド作戦當時ドイッの前陸軍總司令フリッツチヌ大將がワルシャワ附近で戦死した際も英國側は同將軍は後方からやられただと言つて暗に獨軍の爲めに殺されたことを示唆した。

△デマ放送は躍る

最近のことであるが米國驅逐艦バリー號がスペイン沖合で獨潜水艦に魚雷攻撃を受けてSOSを發してゐるのをニューヨークのマツキー無線會社で傍受したといふ至急報が飛び込んだ、同盟が慌てたのみならず米國でも大騒ぎとなり

で、日曜は休みといふ風にローマ字電報の檢閲をやるようになったが既に遅い、イタリアは最近まで自由に日本語を使はせてゐたが参戰後英語又は佛語といふことに制限したのでニュースも相當窮屈になつた、この様な關係でニュースはいつともドイッにリードされてゐる形では獨り對日本のみではなくアメリカに對しても同様で英佛側に同情的なアメリカ新聞紙面にドイッ側のニュースの方が多く掲載されてゐるといふ皮肉な現象を呈してゐる。

△國際電話と電送 寫眞

國際電話は現在では新聞通信の相當大きな武器になつてゐるが英佛は開戦と同時に外國との通話をやめてしまつた、我々としてはドイッの攻撃開始を前にしてロンドンパリの線子を是非電話で聴きたいのが出来ない、これに反してドイッは今でもどしどし通話をさせてゐる各新聞紙面を賑はす國際電話がベルリンとニューヨークに限られてゐるのはこのためである、ローマは参戰後間もなく禁止した、電送寫眞は戦争開始と共に英獨兩國共日本との間に寫眞電送を始め早く戦争の寫眞を見せようといふ競争をやつた結局ドイッが四月、英國が五月、これと前後してサンフランシスコ東京間にも開始されたが畫面が非常に悪い而も料金が一枚五百圓もするのて頻々とは使へない現状である。

△特電と同盟

各新聞社の「特電」はその名の示す通り各社が海外に派遣してゐる特派員から打つて来るもの「同盟」は同盟で集めて新聞社、放送局に配信したものである、特電の(三頁へつゞく)

（二頁よりつづく）

方でも特派員のほかに朝日新聞は米國のAP通信、ニューヨーク、タイムズ紙、ロンドンではロイター通信にタイムズ紙又東京日々新聞は米國のUP通信、讀賣新聞はハリスト系のインターナショナルニュース、サーヴィスとそれぞれの特約を結んでゐる、その他の新聞社でもそれぞれ通信員を囑託しこれから打つて来るものを特電として紙面を飾つてゐるのである、これに對し同盟は現在全世界に十數ヶ所の支局を作りこれに三十數名の日本人特派員が配置されて居るこれらの各支局から刻々打つて来る電報に外國の各通信社が打電して来る電報を補充してこれを適宜編輯し各新聞社放送局に配信してゐるのが「同盟」電報である。尙特に今度の戦争になつて起つたことであるが英國大使館ドイツ大使館では毎日多量の電報を本國から取つて日本の各方面に配つてゐる大使館が電報を受けてこれを參考にする程度ならよいがこれを新聞社や銀行會社にまで配ることは度を過ぎたやう方ではないかと思ふ。新聞社によつてはこの情報をそのまま書き直して特電としてゐるものもある、新聞を見て特電とあつても電報の発信地と内容の場所が非常に違つてゐるのは先づ一應信用が出来ないのであつて、例へばニューヨーク發とあつても「ニューヨークで接受したローマ電報がベルリン發として傳へる所によれば……」とかいふやうなものである斯る特電が近頃相當のさばつてゐるが無難の惡戯の例もあるから一應警戒すべきである。

△米國經由早廻り

最近の外電で特に顯著な事實はニューヨーク經由の歐洲電報が激増したことである、例へばロンドン

ンパリ等の情報が少ないものだから各社とも何とかして英佛側のニュースを取りたいと一生懸命努力した結果最近米國廻り電報が日本の新聞紙面の上で幅を利かせるようになった。これは日本のみでなく世界各國共通の現象であるが米國の通信社は何といつても一番金をかけてゐるし記者も多く特派してゐるから最も活潑である、これまた英國下院の演説はロンドン電報を大急ぎで翻譯して朝刊に入れた即ち英國の午後三時（日本時間夜の十二時）に議會が開かれそれから演説が始まる片つばしから来るこの電報をこちらでは要約して何とか朝刊に間に合はすことが出来たのであるが戦争以來この營業が出来なくなり、ロンドンを待つてゐる朝刊に入らぬやうになつた、それで便法としてニューヨーク支局に頼んでニューヨークに入つたロンドン電報を東京へ轉電して貰ふことにした、これで漸く前通り朝刊に入れることが出来るようになった、チャーチル英首相の例の極東問題の政策變更に關する重要聲明もロンドン發同盟となつてゐるが實は米國を早廻りして来た電報である、これは同盟のみでなく朝日、日々、讀賣なども同じである、從來歐洲の重大事件の第一報は例外なしに米國を廻つて入つて来た電報が一番早い、これは米國の通信社が非常に能率が良いといふ以外に歐洲米國間米國日本間の電信電話の連絡も非常に宜いからである。

△ニュース速報

米國經由の電報が早いといふ二三の例をあげて見ると昨年の九月三日にチエンバラン英首相がラヂオを通じてドイツと交戦状態に入つたといふことを演説した、それを

競争

米國經由の電報が早いといふ二三の例をあげて見ると昨年の九月三日にチエンバラン英首相がラヂオを通じてドイツと交戦状態に入つたといふことを演説した、それを

日本時間になはずと九月三日午後七時十五分である、この第一報の至急報が東京へ来たのが七時四十分であつた、直ちに同報電話で各新聞社に速報すると十分位でもう街から號外の鈴の音が聞えて来る英國でチエンバランが喋つて日本でその號外が出るまで僅か四十五分である、而もそれはニューヨークで一度中繼されたものである、細かく言へばロンドン、ニューヨーク間が十分、ニューヨーク、東京間が十五分合計二十五分であつたのである、ロンドン支局でもやはり同じようにこの演説を聞いて直ぐ東京へ第一報を打つてゐるので

岩永賞設定

故岩永同盟初代社長の功績を記念する爲今岩永賞が設立された、受賞資格は同盟職員中同盟の爲顯著な功績あつた者で、本社長及支社局長の推薦した候補者を社長、常務理事、局長、局次長で構成する委員會で受賞者及授賞金額を決定し毎年十一月七日に之を發表することになつた。

五月十日の白蘭侵入の時もニューヨーク經由のベルリン電報が一番早かつたこれは日本時間の午後三時五分にニューヨークを出て十分で東京に着いたこの第一報は未だ確報でなくさういふ報道があるといふことであつたが續いて今度はワシントンの國務省が獨軍の關、白、リユクサンブル侵入を發表したのである、これは新しい一つの現象であるが米國國務省は歐洲問題に對する非常に早い而も正確な情報を持つてゐるのである。第二次歐洲大戰開始の見透しについては何人もこんな早く來ようとは思はなかつたのに米國の出先大使は既に七八月からの見透しをつけてゐたのであつて、兎に角米國國務省が非常によい情報を持つてゐるのは事實である、それで獨軍のベルギー、オランダ侵入のニュースは國務省が先づ日本時間午後三時二十分にワシントンを出た電報が三時二十五分に

東京に到着しワシントン東京間僅かに五分といふ新記録を作つた、それから五分後にリユクサンブル侵入の第一報もワシントン東京間を八分で来た、同じニュースをベルリンから打つて来たのは至急報で向ふを三時三十三分に打つて四時七分に東京に來たのであつてこの間三十四分かより東京では號外の出た後であつた。最近の例としてはイタリアの參戰第一報がある、これは六月十日午後七時にムツソリーニ首相がヴェネチア宮のバルコニーから重大發表をするといふのであつたが日本時間にして十一日午前二時に演説開始である第一報の至急報はニューヨークから來た、ローマニューヨーク間五分、ニューヨーク東京間六分、合計十一分であつた譯である、ローマ支局からの直電はこの時は割合に速く午前二時六分にローマを出て東京へ着いたのが二時二十九分で二十三分であつた。

△日本ニュースの傳播

日本でも色々の新聞や雑誌が出てゐるしラヂオもあるし演説會もあつて例へば英國やドイツに對する日本の主張など相當明瞭に表示された積りであるといふことが從來多かつた、やはりそれらの要點を押へぬといくら日本國內で言大にして叫んでも直ぐには外國に出て行かない、故に出てゆくチャンネルを押へて行かねばならぬ。そのチャンネルはどういふ所かと云ふと第一に東京に駐在して居る各國の新聞通信の特派員である、現に同盟社内にも各國の代表的通信社の支局があつて英國のロイター、フランスのアヴアス、米國のAP及びUP、イタリアのステファニ、ソ聯のタス等は皆同盟に頼

互助會報告 (八月)

- 出 生
- 松下 信雄(京都支局)長女
 - 鄭 錫 虎(京都支局)長女
 - 野澤 榮(大阪支局)第一子
 - 内野 福治(長崎支局)長男
 - 青木 榮次郎(福井支局)二男
 - 寺尾 順祐(京都支局)長女
 - 小原 光志(本社發送部)第二子
 - 坂東 太郎(横濱支局)第一子
 - 中新 凡夫(本社經濟部)第一子

